

第2回 メンタルヘルス・セミナー開催

去る2009年3月7日、関西大学教授の池見陽先生をお招きし、『産業保健スタッフのためのリスニング（積極的傾聴）再考』と題し、ワークショップ型研修を開催しました。



前半は池見先生より座談会の形で、ロジャースやジェンドリンの傾聴論など、近年の傾聴理論の進化の過程についてお話いただきました。

カウンセラーの自己一致の大切さや、クライアントが言った言葉どおりの内容を返すのではなく、そこからカウンセラーが感じた意味、すなわちフェルトセンスに気づき、それを言い表す「体験過程的傾

聴」についてご説明いただきました。

参加者からは、「相手から発せられることばにとらわれるのではなく、ことばから受け止めることができる感じをしっかりと感じとれることが大切と気付けた」「フェルトセンスを大事にすることの意味が分かった」「目からウロコだった」といった感想がありました。

後半では池見先生が聞き手、希望者がクライアント役になり、実際の体験過程的傾聴のデモンストレーションを見せていただきました。わずか10分弱のセッションの中で、クライアント役の方の表情や様子に変化していく様子を目の当たりにして、多くの参加者が驚きました。

参加者からは、「カウンセリングでクライアントが劇的に変化したのを目のあたりにして感動した」といった感想がありました。



「普段のクライアントとの関わりでモヤモヤしていたことがすっきりしました」「“感じる”とそれを伝えること、容易ではありませんが、本日の学びを明日につなげたいと思います」「いくつかのキーワードをお土産に持って帰ります」「身近にお話が聞けてよかった」「先生のあたたかい雰囲気がとても居心地がよかったです」といった感想をいただきました。

